

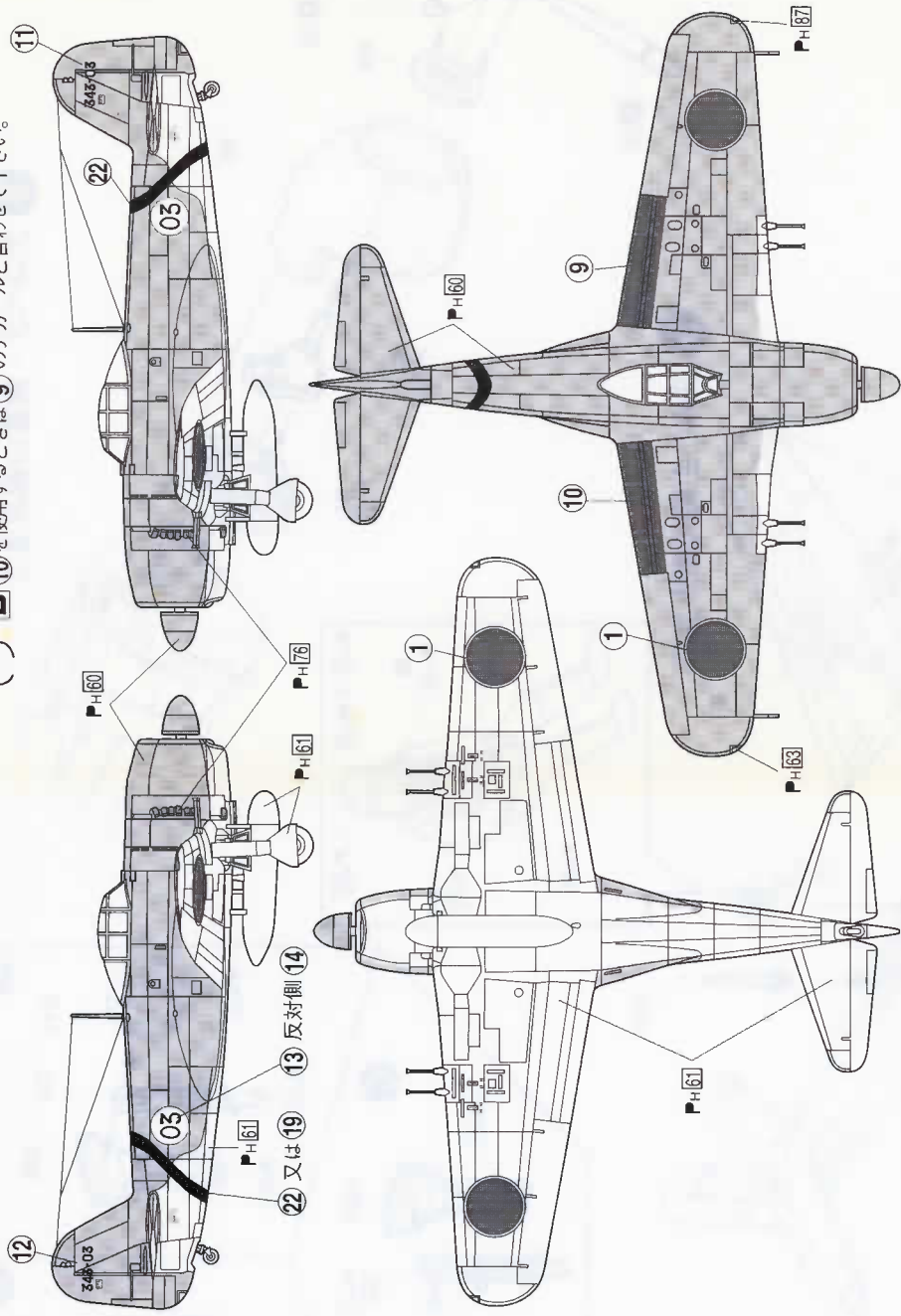
# SHIDENKA

〈日本海軍局地戦闘機 川西NLK2-J「紫電改初期型」〉  
日本海軍初の2000馬力級重戦闘機としてデビューした「紫電」だが、中翼という独特の機体構造による視界の悪さや伸縮式の主脚のトラブル、「警」エンジンの不調という相次ぐ欠陥の発生により期待された戦果をあげられなかったため、急遽改修が加えられることになった。これが「紫電改」であったというのが従来の説であるが、実際は「紫電」試作機が初飛行した五日後に、仮称1号局戦(紫電)兵装強化第3案という名称で「紫電改」の計画がスタートしている。このことから、「紫電」は当初からつなぎ役であったといえなくもない。この計画により、主翼の低翼化に伴う視界の向上、単純な主脚構造への変更が可能となったばかりか、警エンジンの外径に合わせた機首の絞り込みなどが実施され、性能は時速600km/h前後を發揮する性能を得、米軍より「燃えにくい高速武装の戦闘機」という評価を戦争中から与えられるほどであった。初期型とは、量産に入った通産100号機までの機体のことをいい、外観上の特徴は、大型の垂直尾翼である。そして、紫電改装備部隊として有名な343航空隊が、独占的に使用したのがこのタイプで、昭和20年3月19日、この日索敵中の彩雲偵察機は、午前6時50分に「敵機動部隊発見」を報告、その後、戦爆連合の米艦載機群は、いずれもパーバックス状態に襲われる有様となった。343航空隊が松山上空であげた戦果は、F6Fヘルキャット、F4Uコルセア両戦闘機48機、SB2Cヘルダイバ一艦爆4機を撃墜したものであったが、空母に帰艦した機体の中には修理不可能のため海へ投棄されるものもあり戦果以上の損害を与えたようである。初期型はその後343航空隊に所属する各戦闘部隊の指揮官専用機として使用されており、とくに紫電改のEースとして有名な、戦闘301の指揮官野野直大尉の専用機「15」号機は最も有名である。

〈要目表〉

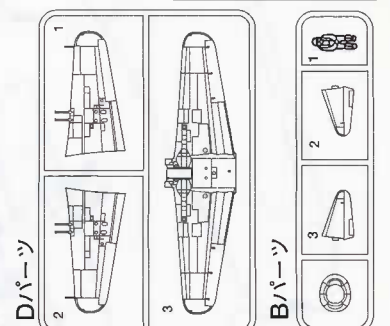
- 乗員 1名、全幅11.990m、全長9.346m、全高3.960m、全備重量4,200kg、エンジン 警21型、最大出力2,000hp、武装 20mm機関砲 × 4

《マーキングと塗装》 ○ はデカールの指示です。 □ ⑩ を使用するときは ⑨ のデカールと合わせて下さい。



⑮～⑱は 試作機に使用されたデカールです。いずれ⑪・⑫の位置です。

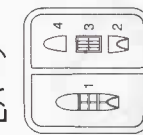
《部品図》



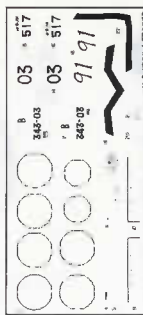
Cパーツ



Eパーツ



デカール



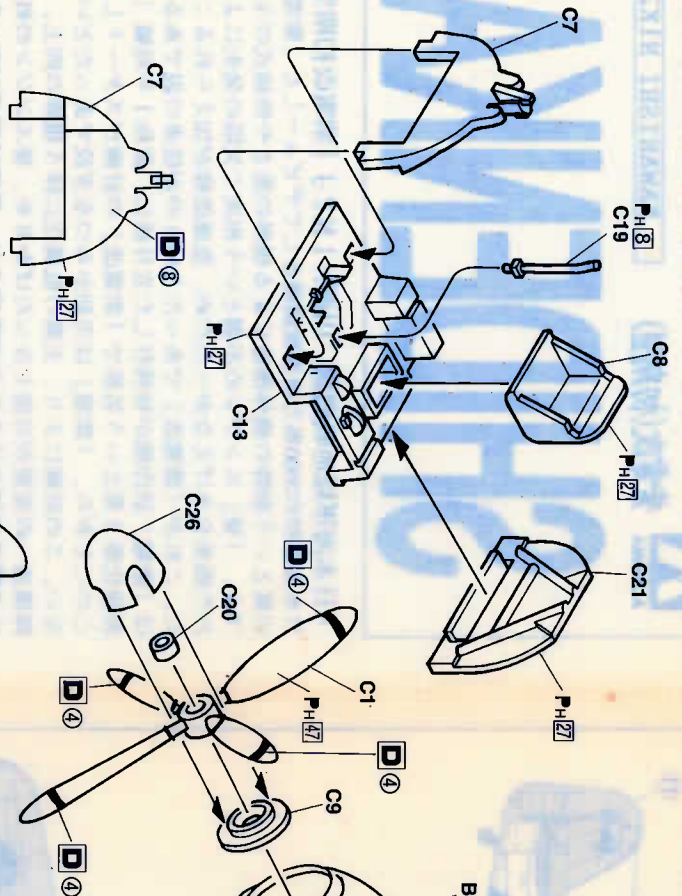
部品価格表

Aパーツ	800円
Bパーツ	600円
Cパーツ	800円
Dパーツ	600円
Eパーツ	500円
デカール	500円

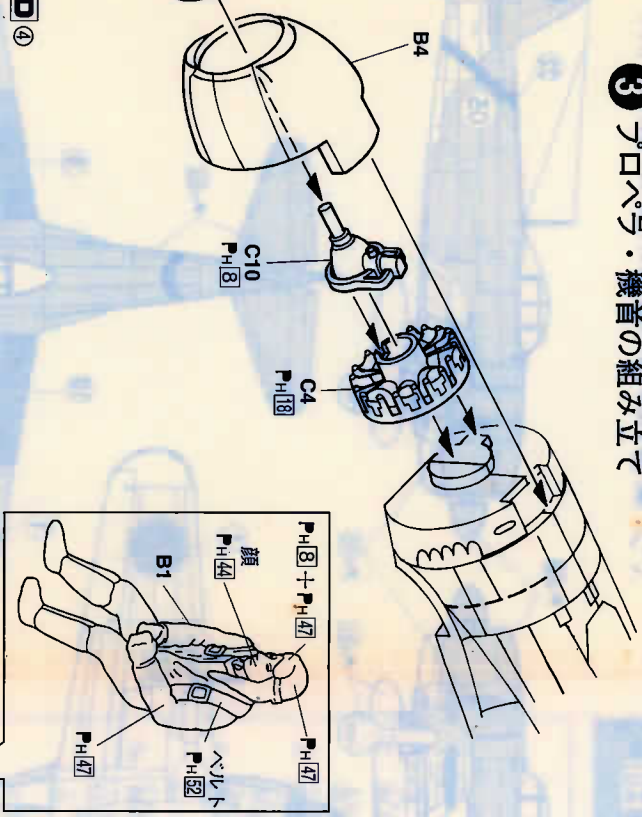
アオシマへの注文と送金は

☆お近くの郵便局にある「郵便振替用紙」の通信欄に「商品名」と「ご注文部品名」を書いて  
口座番号「00810-1-55333」加入者名「青島文化教材社」  
あてに送金して下さい。  
※ご注文いただいた品物がお客様の手元に届くまでに2週間ほどかかります。  
※価格は予告なく変わる場合がありますので御了承下さい。

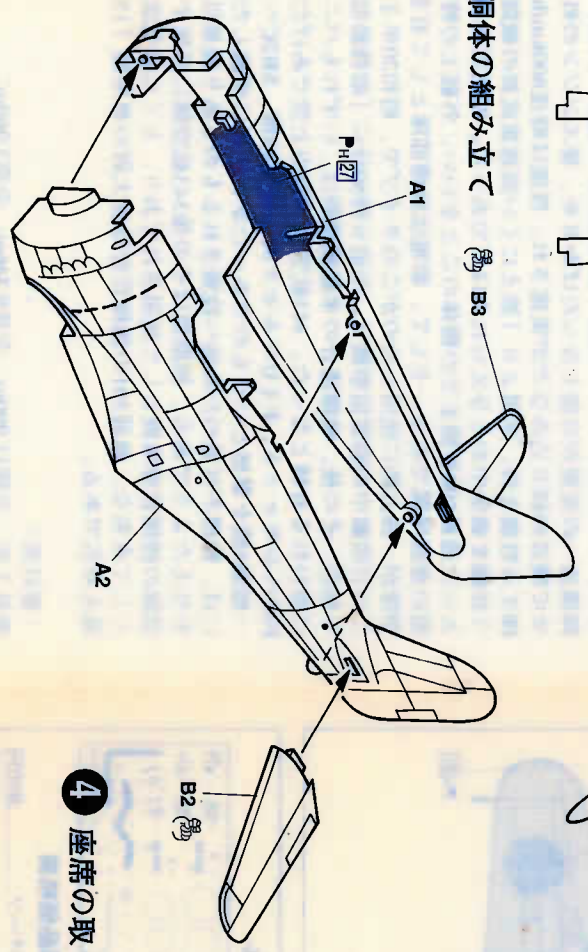
**1** 座席の組み立て



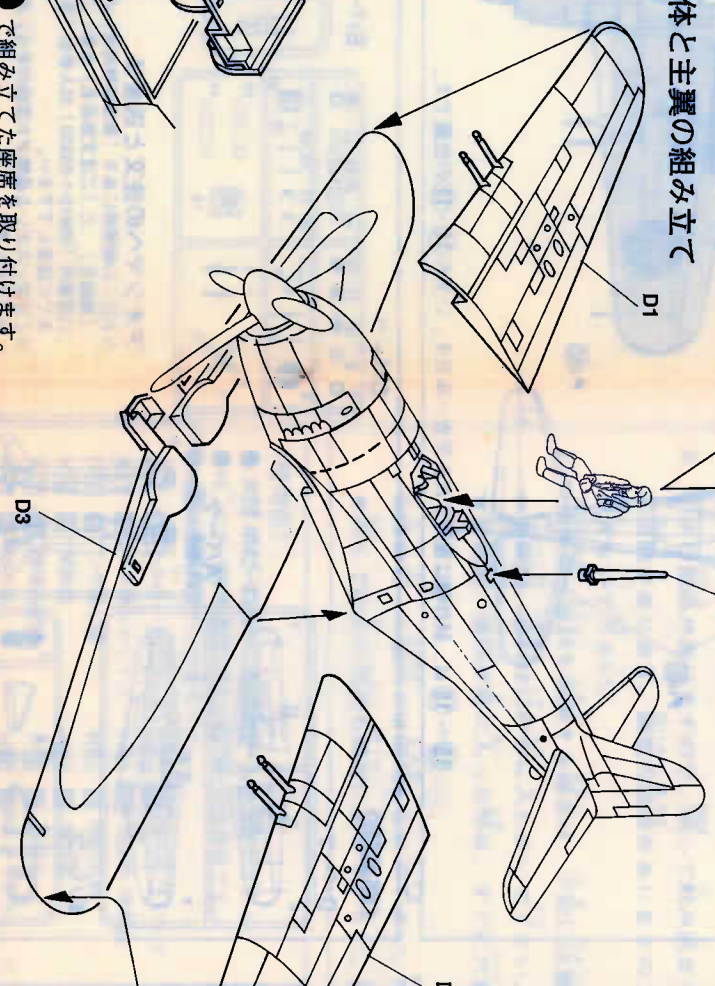
**3** プロペラ・機首の組み立て



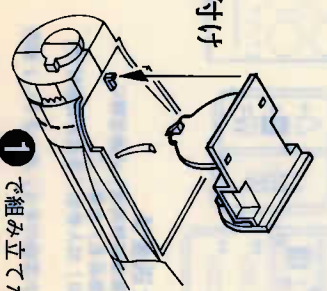
**2** 胴体の組み立て



**5** 胴体と主翼の組み立て

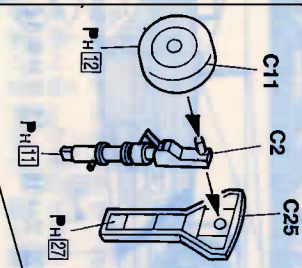


**4** 座席の取り付け

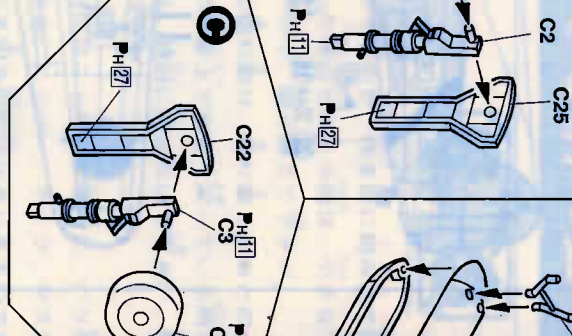


**1** で組み立てた座席を取り付けます。

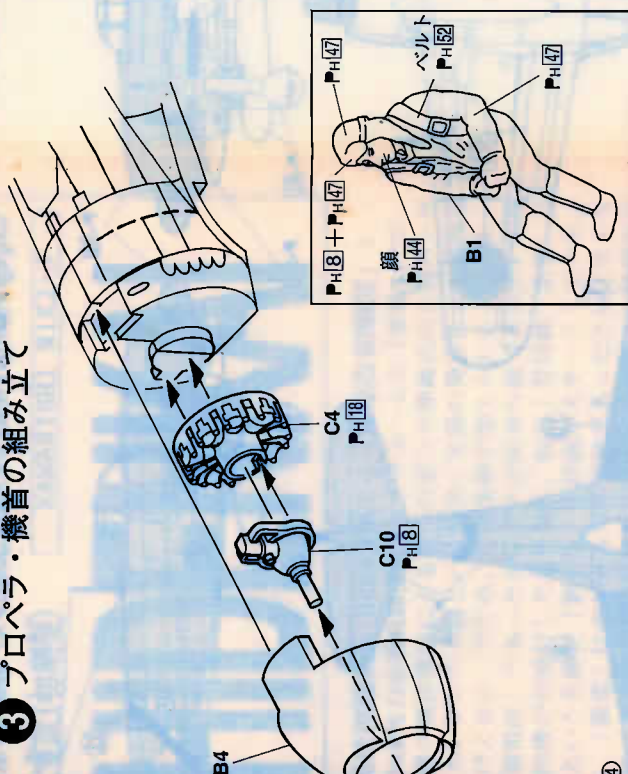
**A**



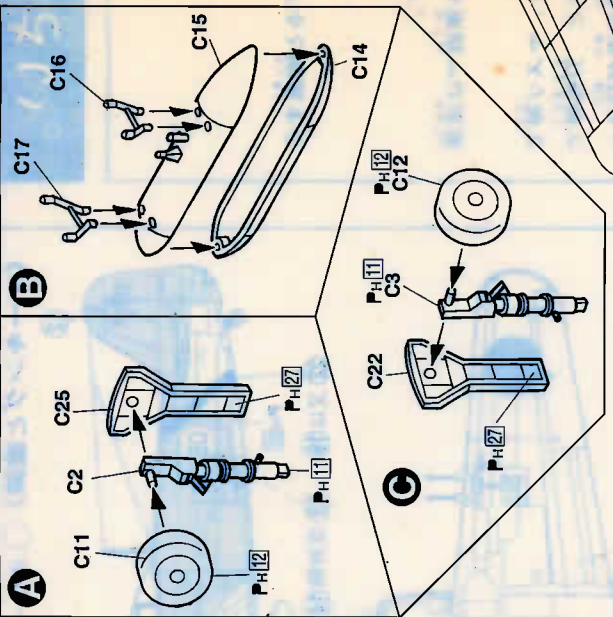
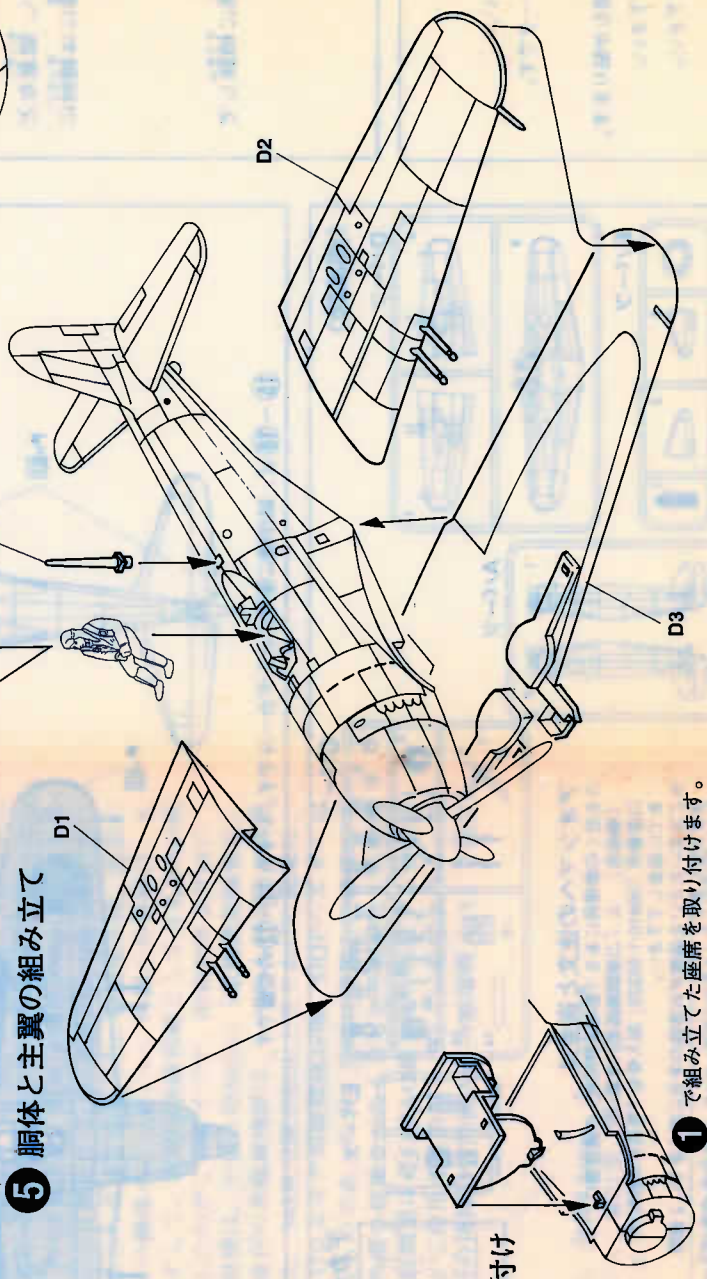
**B**



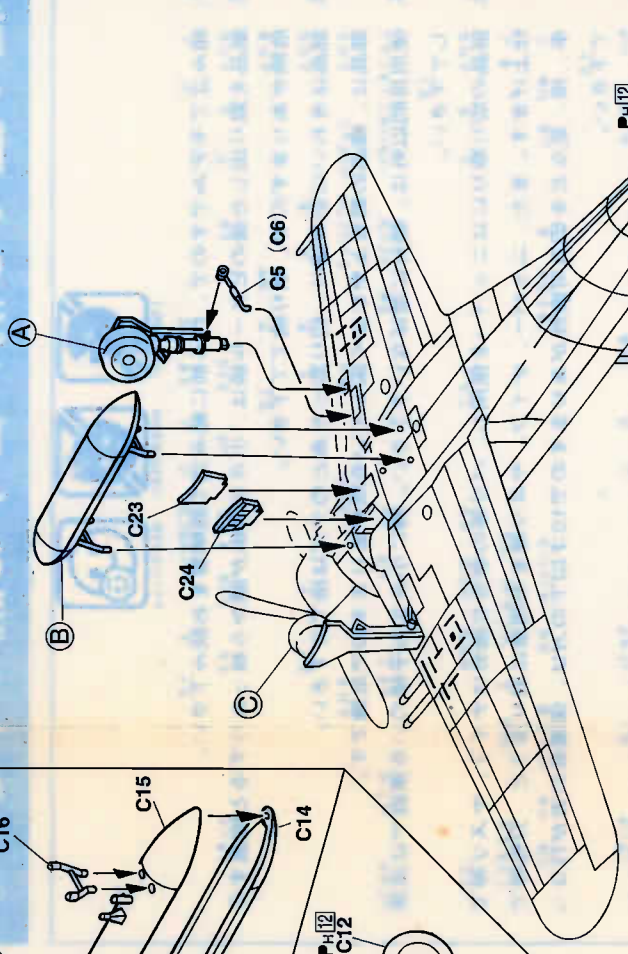
3 プロペラ・機首の組み立て



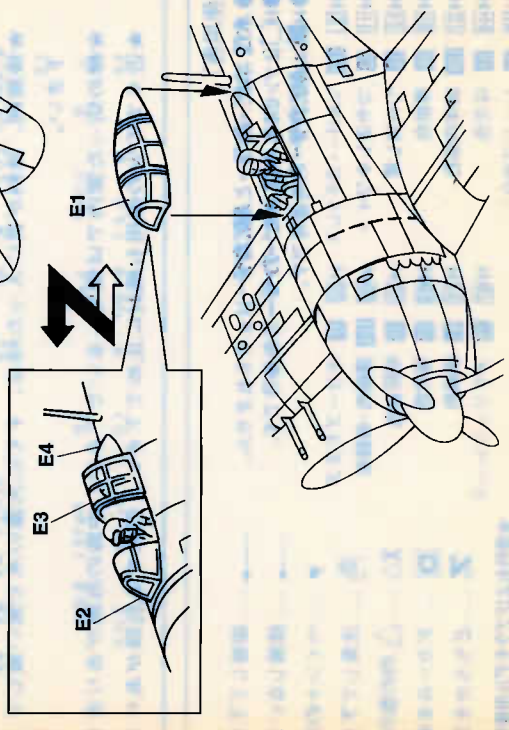
5 胴体と主翼の組み立て



6 主翼裏側の組み立て



7 風防の取り付け



1 で組み立てた座席を取り付けます。

座席の取り付け